

2020 年度  
東北学院大学  
コミュニティソーシャルワーカー（CSW）  
スキルアッププログラム  
（履修証明プログラム）  
  
自己点検・評価報告書

2021 年 5 月  
東北学院大学  
地域連携センター

1. はじめに
2. コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラムとは
3. 教育プログラム等の内容について
  - (1) 受講要件
  - (2) カリキュラム
  - (3) 修了要件
  - (4) フォローアップ授業科目
4. 新型コロナウイルス感染症拡大防止措置に伴う遠隔講義への変更について
  - (1) 受講生への対応
  - (2) 講師への対応
  - (3) 事務局の運営
5. 広報活動、受講者等の状況
  - (1) 広報活動
  - (2) 受講生等の状況
6. 受講状況、修了者の状況
7. CSWスキルアッププログラムにおける自己点検評価体制等について
  - (1) 自己点検評価の体制
  - (2) 自己点検評価の公表
8. 受講生（修了生）アンケート実施結果
9. 自己点検評価について（アンケート等に基づく次年度以降への変更・検討等）
10. 終わりに

## 1. はじめに

東北学院大学（以下、「本学」という）は、1886（明治19）年創設の「仙台神学校」を母体とし、前身となる「東北学院」を経て（1891（明治24）年改称）、1949（昭和24）年に設置された。設置以来、福音主義キリスト教の精神に基づく「個人の尊厳の重視と人格の完成」という建学の精神を堅持、具現化する努力を続け、今日に至るまで、地域社会の発展に貢献しうる人材の育成に寄与してきた。現在は東北地方を代表する私立総合大学として、累計18万人を超える卒業生を輩出している。

本学は設立以来、地域連携・社会貢献を、その重要な使命の一つとして位置づけてきた。2014年、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」に採択され、そこでの取り組みをもとに、学卒者養成のみならず、これからの地域社会活性化、地域福祉充実を担いようとする社会人教育を実践するため、2016年度に「コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラム」（以下、「CSWスキルアッププログラム」または、「本プログラム」という）を開設した。「社会人の学び直し」に対する社会的要請や機運がますます高まる中で、2020年度に開講5年度目を迎えた本プログラムの取り組みや成果等の自己点検・評価を、本報告書にまとめた。

## 2. コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラムとは

地域福祉・社会福祉現場の課題に直結する本格的、実践的な授業内容を通して、まちづくりのキーパーソンであるコミュニティソーシャルワーカー（CSW）のスキルアップを目指す教育プログラムである。

CSWスキルアッププログラムは、本学の重要な使命の一つである、地域連携・社会貢献に寄与すべく、学校教育法第105条及び学校教育法施行細則第164条に基づき、2016年4月より履修証明プログラムとして開講している。開設以来、宮城県内の社会福祉、地域福祉分野に従事する社会人を中心に受講生として受け入れ、2020年度末時点で、累計修了者数は50名を超えた。

なお、本プログラムは、2016年度の開講時より文部科学省「職業実践力育成プログラム（BP）」に認定され、さらに、2017年10月より厚生労働省「教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）」の講座指定を受けている。

### 3. 教育プログラム等の内容について

C SWスキルアッププログラムは、その開講科目を、基礎科目、必須理論、実践技法、特論演習、事例研究の5つに分類し、体系的、かつ包括的な内容になるようプログラムを構築している。上述の科目分類のうち、基礎科目及び必須理論を構成する科目群は必修科目とする一方、実践技法、特論演習及び事例研究の科目群については選択科目として設置し、受講生の興味・関心分野に応じた履修を可能にしている。また、プログラム中盤に「中間報告会」、最終科目に「最終報告会」を設け、それぞれの段階における修得度等を測定している。

#### (1) 受講要件

本プログラムは、以下の2つを受講要件として定めている。

- ①高等学校、または中等教育学校を卒業した者。または、大学を受験できる資格を取得した者。
- ②就業経験等を有し、地域とそこに住む人の未来づくりのために、関係者の協働を促進する気持ちを持つ者  
※地域づくりに貢献したいと考える者の受講も、受講可否判定のうえ許可している。そのため、十分な受講意思等が認められる場合は、就業経験等がない大学生等の受講も可能である。

#### (2) カリキュラム

2020年度は、必修科目19科目（57時間）、選択科目28科目（84時間）の計47科目（141時間）によるカリキュラムを構築した。設置科目の具体的内容については、下表記載の通りである。

2020年度 開講科目・担当講師一覧（講師所属は2020年3月（受講生募集）時点）

科目分類	科目名	担当講師	時数	
必修科目	基礎科目	地域福祉の時代とコミュニティソーシャルワーク	阿部重樹 (東北学院大学経済学部)	3
		コミュニティソーシャルワークⅠ	村山くみ(東北福祉大学総合福祉学部)	3
		コミュニティソーシャルワークⅡ	村山くみ(東北福祉大学総合福祉学部)	3
		ケースワーク	竹之内章代(東北福祉大学総合福祉学部)	3
		社会保障制度の新たな動向Ⅰ	阿部裕二(東北福祉大学総合福祉学部)	3
		社会保障制度の新たな動向Ⅱ	宮城県職員、 仙台市職員	3
	必須理論	データによる社会調査・分析(社会疫学)Ⅰ	鈴木寿則(仙台白百合女子大学人間学部)	3
		データによる社会調査・分析(社会疫学)Ⅱ	鈴木寿則(仙台白百合女子大学人間学部)	3
		データによる社会調査・分析(ライフストーリー聞き取り)Ⅰ	黒坂愛衣(東北学院大学経済学部)	3
		データによる社会調査・分析(ライフストーリー聞き取り)Ⅱ	黒坂愛衣(東北学院大学経済学部)	3
		地域の施策と資源理解Ⅰ	西塚国彦(宮城県社会福祉協議会)	3
		地域の施策と資源理解Ⅱ	岩淵徳光(仙台市社会福祉協議会)	3
		地域社会とCSR(企業の社会的責任)	矢口義教(東北学院大学経営学部)	3
		組織運営	和田正春(東北学院大学教養学部)	3
		地域福祉活動計画Ⅰ	高橋賢一(宮城県社会福祉協議会)、 佐々利春(富谷市社会福祉協議会)	3
		地域福祉活動計画Ⅱ	岩淵徳光(仙台市社会福祉協議会)	3
		地域福祉活動計画Ⅲ	増子正(東北学院大学教養学部)	3
		報告会	中間報告会	本間照雄(東北学院大学地域共生推進機構)
	最終報告会		本間照雄(東北学院大学地域共生推進機構)	3

科目分類	科目名	担当講師	時数	
選択科目	実践技法	地域福祉とファンドレイジングⅠ	久津摩和弘（日本地域福祉ファンド レイジングネットワークCOMMNET）	3
		地域福祉とファンドレイジングⅡ	久津摩和弘（日本地域福祉ファンド レイジングネットワークCOMMNET）	3
		協働の手法Ⅰ	遠藤智栄（地域社会デザイン・ラボ）	3
		協働の手法Ⅱ	遠藤智栄（地域社会デザイン・ラボ）	3
		ファシリテーションの実際とワークショップ運営Ⅰ	菊池広人（東北学院大学地域共生推進機構）	3
		ファシリテーションの実際とワークショップ運営Ⅱ	渡邊一馬（ワカツク）	3
		ファシリテーショングラフィックス	石塚直樹（みやぎ連携復興センター）	3
		災害ケースワーク	北川進（宮城県社会福祉協議会）	3
		健康格差論	鈴木寿則（仙台白百合女子大学人間学部）	3
	傾聴の技法	阿部重樹（東北学院大学経済学部）	3	
	特論演習	特論演習ⅠA（高齢者支援と地域社会）	折腹実己子（仙台市地域包括支援センター連絡協議会）	3
		特論演習ⅠB（高齢者支援と地域社会）	折腹実己子（仙台市地域包括支援センター連絡協議会）	3
		特論演習ⅡA（生活困窮者支援と地域社会）	後藤美枝（パーソナルサポートセンター）	3
		特論演習ⅡB（生活困窮者支援と地域社会）	後藤美枝（パーソナルサポートセンター）	3
		特論演習ⅢA（子育て支援と地域社会）	小岩孝子（FORYOUにこにこの家）	3
		特論演習ⅢB（子育て支援と地域社会）	小岩孝子（FORYOUにこにこの家）	3
		特論演習ⅣA（障害者支援と地域社会）	伊藤清市（仙台バリアフリーツアーセンター）	3
		特論演習ⅣB（障害者支援と地域社会）	伊藤清市（仙台バリアフリーツアーセンター）	3
		特論演習ⅥA（精神障害者支援と地域社会）	菅原里江（東北福祉大学総合福祉学部）	3

科目分類	科目名	担当講師	時数	
選択科目	特論演習	特論演習ⅥB（精神障害者支援と地域社会）	菅原里江（東北福祉大学総合福祉学部）	3
		特論演習ⅦA（SDGsと地域社会）	紅邑晶子（SDGsとうほく）	3
		特論演習ⅦB（SDGsと地域社会）	紅邑晶子（SDGsとうほく）	3
	事例研究	事例研究ⅠA（まちづくりとコミュニティソーシャルワーク：仙台市を事例として）	穴戸充（仙台市社会福祉協議会）	3
		事例研究ⅠB（まちづくりとコミュニティソーシャルワーク：南三陸町を事例として）	本間照雄（東北学院大学地域共生推進機構）	3
		事例研究ⅡA（石巻市を事例としたコミュニティソーシャルワーク）	阿部由紀（石巻市社会福祉協議会）	3
		事例研究ⅡB（柴田町を事例としたコミュニティソーシャルワーク）	相原美由紀（柴田町地域包括支援センター）	3
		事例研究ⅢB（市民セクター／社会的経済の展開とその課題）	齊藤康則（東北学院大学経済学部）	3
		事例研究Ⅳ（地域活動を事例としたコミュニティソーシャルワーク）	増田恵美子（Narita マルシェ）	3

### (3) 修了要件

本プログラムは、以下の3つを修了要件として定めている。

- ①120時間以上（必修科目57時間、選択科目63時間以上）の講義を履修し、実出席時間が96時間以上であること（欠席時は、授業収録映像を視聴する）
- ②履修科目ごとに提出するミニッツペーパーの点数が合格ライン以上であること
- ③最終報告会で合格の評価を得ること

### (4) フォローアップ授業科目

CSWスキルアッププログラムでは、過年度の修了生に対する学びのサポートとして、2018年度より「フォローアップ授業科目」制度を設けている。同制度の対象となるのは、当該年度の前年度に開講していない科目である。例えば、2018年度のフォローアップ授業科目は、2017年度に開講していなかった科目（2018年度の新規開講科目）となる。

2020年度は、以下の2科目を、フォローアップ授業科目の対象としていたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う講義形態の変更により「事例研究Ⅳ（地域

活動を事例としたコミュニティソーシャルワーク)」は、フォローアップ授業科目としての開講を中止した。

2020年度 フォローアップ授業科目（当初予定）

日程	科目	講師	備考
8月1日（土）	事例研究Ⅳ（地域活動を事例としたコミュニティソーシャルワーク）	増田恵美子 （Narita マルシェ）	講義形態の変更に伴い、フォローアップ授業科目としての開講は中止
11月7日（土）	社会保障制度の新たな動向Ⅱ	高橋真由美 （宮城県職員）	遠隔授業にて開講



#### 4. 新型コロナウイルス感染症拡大防止措置に伴う遠隔講義への変更について

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、2020年度CSWスキルアッププログラムは、開講式、履修証明書授与式を含め、プログラム内容の全てを遠隔開催とした。なお、オンタイム型授業実施に向けた事務局の運営体制準備、ならびに受講生・担当講師の通信・設備環境確認等のため、2020年4月（2科目）及び5月（6科目）に予定されていた講義は、収録映像を視聴したうえで課題を提出するオンデマンド型授業とした。受講生の受講環境及び事務局の運営体制が整った6月以降の講義については、遠隔会議システム「Zoom」を使用したオンタイム型授業にて実施した。

なお、4月に開催予定であった対面での開講式は中止としたため、オンタイム型授業初回である6月6日の講義開始前に、改めて開講式を執り行った。

また、本プログラムは2020年度時点で、全ての教育プログラムを対面で行うことを前提にカリキュラム等を構成している。そのため、遠隔形式での開催は、文部科学省からの事務連絡等に基づく例外的な対応である。

##### (1) 受講生への対応

講義形態が遠隔授業へ変更になること等については、以下の通り、受講生に連絡等を行った。（以下において、西暦の記載が無いものは2020年を表す）

4月8日：受講決定通知（合否通知）の発送。併せて、文書にて、4月18日に予定されていた対面開講式及び第1回目・第2回目講義の延期を連絡。開講日程や、開講形式については決定後、別途連絡することを通知。加えて、受講予定場所（自宅、職場等）のネットワーク環境等に関する調査を開始。

4月17日：全受講生に対し、4月・5月の講義はオンデマンド型授業、6月以降の講義はZoomを用いたオンタイム型授業とする方針をメール連絡。併せて、ネットワーク環境等について、未回答者へ再調査開始。

4月21日：全受講生について、ネットワーク環境等の回答受領。

5月1日：オンデマンド型授業用データの初回発送（以降、順次発送）。

5月6日：今年度のプログラム運営方法（開講形態等）について、本学地域連携センター長名で受講生に対し、改めて通知。

5月13日：オンタイム型授業受講にあたってのガイドラインを送付。

5月14日：Zoomの簡易操作マニュアルを送付。

5月16日：受講生と本プログラム運営事務局において、Zoomの接続テスト実施。  
8名の受講生全員が接続。

6月6日：オンタイム型授業初日。初回講義に先立ち、開講式を実施。以降の日程については、事前の開講スケジュール通り、オンタイム型授業を実施した。

なお、ネットワーク環境等の確認を行った結果、マイク環境のない受講生1名、カメラ環境のない受講生1名があった。それぞれの受講生に対し、事務局よりヘッドセット、ウェブカメラを貸与した。

遠隔授業への変更は、緊急対応となったことに鑑み、4月・5月のオンデマンド型授業については、全ての授業時数を「実出席時間」として計上することとした（本プログラムの修了要件のひとつに「96時間以上の授業に実出席すること」が定められている）。6月以降のオンタイム型授業を欠席した受講生に対しては、Zoomのレコーディングデータを送付し、視聴のうえ、ミニッツペーパーの提出を求めた。

Zoomを用いたオンタイム型授業は、20日程・39科目（中間報告会・最終報告会を含む）を開講したが、受講を妨げるような障害が発生することはなかった。

## (2) 講師への対応

講義形態が遠隔授業へ変更になること等については、以下の通り、講師に連絡等を行った。（以下において、西暦の記載が無いものは2020年を表す）

3月17日：4月に授業を予定していた講師に対し、スケジュール変更（開講日後ろ倒し）のメール連絡（後日、さらにオンデマンド型に変更）。

4月16日：2020年度の講師に、同年度は遠隔授業による開講とし、4月・5月の講義についてはオンデマンド型、6月以降はオンタイム型とする方針を、メール連絡。

併せて、4月・5月の担当講師に対し、オンデマンド型授業用の映像を作成するようメールにて依頼。6月以降の担当講師については、ネットワーク環境等についての調査を開始。なお、配信場所の環境や要望等により、学内からの配信を希望する者については、本学教室からの配信を可能とした。

5月20日：オンタイム型授業実施にあたってのガイドライン及びZoomの簡易マニュアルを送付。また、参考資料として、受講生に配付のオンタイム型授業受講にあたってのガイドラインを送付。

6月6日：オンタイム型授業初日。以降の日程については、事前の開講スケジュール通り、オンタイム型授業を実施した。

7月17日：学内からの配信を希望する講師が多数あったため、8月以降の講義担当者に、配信予定場所の一斉調査（事務局増員等の体制準備のため）。  
以降、それぞれの講義の2週間前に、配信場所の確定情報を確認。

2020年度は全47科目のうち、8科目がオンデマンド型、14科目がオンタイム型学内発信（本学土樋キャンパス）、25科目がオンタイム型学外発信（自宅、または勤務先等）による開講となった。なお、オンタイム型授業の実施にあたっては、学内発信、学外発信のいずれにおいても、講義進行を妨げるような障害が発生することはなかった。

### (3) 事務局の運営

#### ① 遠隔授業への変更に関する合意形成について

講義形態を遠隔授業とすることについては、以下の通り合意形成を行った。  
なお、合意形成後の受講生・担当講師への連絡等については、上述の通り。  
（以下において、西暦の記載が無いものは2020年を表す）

3月17日：本学の正課授業開始日が「4月8日（水）から4月22日（水）」に変更されたことに伴い、地域連携センター及び総務部内において、本プログラムの初回開講日程を「4月18日（土）から4月25日（土）」、第2回開講日程を「4月25日（土）から5月9日（土）」に変更することを決定。

4月3日：CSWスキルアッププログラム運営会議にて、開講日程の変更をメール報告。4月7日了承。

4月14日：CSWスキルアッププログラム運営会議にて、4月・5月の講義はオンデマンド型遠隔授業、6月以降の講義はオンタイム型遠隔授業とすることについてメール審議。4月16日承認。

5月1日：オンデマンド型授業用データの初回発送（以降、順次発送）。

6月6日：オンタイム型授業初日。初回講義に先立ち、開講式を実施。以降の日程については、事前の開講スケジュール通り、オンタイム型授業を実施した。

オンタイム型授業の実施にあたっては、運営を妨げるような障害が発生することはなかった。

## ② 授業の運営方法等に関する変更について

### (i) 配付資料等について

本プログラムでは、印刷資料等を講義日当日に受講生に配付することとしていた。今年度は、受講生の学内入校を制限したため、講義直前の水曜日（講義日は全て土曜日のため、講義日の3日前）に、配付資料のデータ格納先を受講生に通知する運用に変更した（ウェブ上のクラウドサービスを利用）。なお、担当講師から印刷済資料の配付希望があった場合においては、講義日前日までに受講生に届くよう郵送手配を行った。

また、配付資料に関する情報を通知する際に、併せてZoom会議室への入室に必要な情報も送付した。

### (ii) 提出課題等について

本プログラムでは、履修科目ごとに提出する課題（ミニッツペーパー）を各講義終了後に作成し、同日中に事務局にて回収することとしていた。今年度は、受講生の学内入校を制限したため、講義終了後に各自作成し、講義日の翌日中に事務局宛てにメールで提出することとした。

## ③ 開講式について

4月18日に対面での開講式開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の急拡大を受け中止した。オンタイム型授業初日（6月6日）の講義開始前に、遠隔（オンタイム型）による開講式を開催し、受講生8名が全員出席した。なお、受講生、登壇者及び事務局ともに遠隔での参加とした（事務局は学内からの配信）。

## ④ 履修証明書授与式・修了式について

2021年3月13日に対面での履修証明書授与式・修了式開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の再拡大等を受け、ハイブリッド型（対面及び遠隔の併用）での開催に変更した。開催規模は大幅に縮小し、修了生8名のうち代表1名のみを学内会場に招き、他7名の受講生については遠隔参加とする他、来賓者

の対面参加は見送った。修了生代表 1 名、登壇者及び事務局のみ本学ホーイ記念館ホールからの参加とした結果、修了生 8 名全員が出席した。なお、修了生代表 1 名については、履修状況、出席状況及び最終成績等を総合的に判断し、事務局にて選出した。

## 5. 広報活動、受講生等の状況

### (1) 広報活動

#### ① 名義後援団体への広報

CSWスキルアッププログラムは、宮城県、仙台市を始め、下表記載の40団体から名義後援を受けている。全ての名義後援団体に対し、継続的に募集要項等を送付し、広報活動を行っている。名義後援団体からは、プログラム運営上の支援のみならず、所属職員等から毎年度複数名の受講申込みがあり、広報活動の効果が認められる。

2020年度 名義後援団体

宮城県	名取市社協	富谷市社協	亘理町社協	色麻町社協
仙台市	角田市社協	蔵王町社協	山元町社協	加美町社協
宮城県社協	多賀城市社協	七ヶ宿町社協	松島町社協	涌谷町社協
仙台市社協	岩沼市社協	大河原町社協	七ヶ浜町社協	美里町社協
石巻市社協	登米市社協	村田町社協	利府町社協	女川町社協
塩釜市社協	栗原市社協	柴田町社協	大和町社協	南三陸町社協
気仙沼市社協	東松島市社協	川崎町社協	大郷町社協	仙台市地域包括 支援センター連絡協議会
白石市社協	大崎市社協	丸森町社協	大衡村社協	みやぎ生活協同組合

※上表における「社協」は社会福祉協議会を表す

#### ② 本学ウェブサイトでの広報

本プログラムの運営主体である、本学地域連携センターのウェブサイト\*内でプログラム紹介を行っている（募集要項データも掲載）。募集要項の送付先以外や本学学生（2020年度は本学学生1名が受講）から、受講申込みのある年度もあり、一定の効果があると考えられる。

#### ③ パンフレット（印刷物）等

開講科目・担当講師の情報を掲載したCSWスキルアッププログラム募集要項を毎年度制作している。募集要項は、名義後援団体に加え、宮城県内の地域包括支援センターや社会福祉法人等に送付している。送付先団体から、毎年度受講申込みがあり（2020年度は1名）、一定の効果があると考えられる。

\* 東北学院大学地域連携センター <https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/iprc/program-2>

#### ④ マナパスへの掲載

リカレント教育等の情報発信サイト「マナパス\*」に、毎年度最新の講座情報を掲載している。また、2021年2月、同サイト上に「地方創生と社会人の学び」特集が組まれるにあたり、マナパス運営事務局から本プログラムの講座掲載について打診を受け、同特集内で紹介記事を掲載した（2021年4月現在掲載中）。ウェブ上での広報は、これまで本学ウェブサイトが主な媒体であったが、全国のリカレント教育情報等をまとめたサイト上で広報展開をすることにより、宮城県外をも含めた効果等が今後期待される。

#### ⑤ その他

C SWスキルアッププログラムは、2016年4月より、文部科学省「職業実践力育成プログラム（BP）」の認定を受けている。

また、2017年10月1日より、厚生労働省「教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）」の指定講座となっている。なお、同制度については、2020年度内に再指定申請を行い受理され、2020年10月以降も引き続き指定講座となっている。

### (2) 受講生等の状況

#### ① C SWスキルアッププログラム受講生

2020年度は、同年2月17日から4月3日までの期間、受講生募集を行い、9名の受講申込み者があった。審査の結果、9名全員が書類審査通過となったが、1名から業務都合による受講辞退の申し出があった。そのため、受講手続きを完了した8名が2020年度のC SWスキルアッププログラム受講生として認められた。なお、8名のうち、7名が社会人、1名が本学学生（法学部2年次生）であった。過年度の受講生数等は、下表記載の通り。

C SWスキルアッププログラム 申込み者数・受講生数

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
申込み者数	18名	15名	10名	11名	9名
（うち、本学学生数）	（1名）	（1名）	（0名）	（1名）	（1名）
受講生数	14名	14名	10名	11名	8名
（うち、本学学生数）	（0名）	（1名）	（0名）	（1名）	（1名）

#### ② フォローアップ授業科目聴講生

2020年度はフォローアップ授業科目として2科目の開講を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置に伴う講義形態の変更により、1科目のみの

\* マナパス <https://manapass.jp/>

開講となった。11月7日（土）に「社会保障制度の新たな動向Ⅱ」（高橋真由美（宮城県職員））をフォローアップ授業科目として開講した結果、過年度修了生1名（2017年度修了生）の受講があった。



## 6. 受講状況、修了者の状況

2020年度は、8名の受講生全員が本プログラムを修了した。8名それぞれの履修及び受講状況は下表(1)記載の通り。今年度は履修科目に対する実出席率の平均が91.5%と極めて高い水準であった。また、履修科目ごとに提出するミニツツペーパーについては60点以上を合格としているが、今年度修了生のうち、最高点（履修科目全体の平均点）であった者の点数は89点、8名の平均点は86点とやや高い水準であった（下表(2)参照）。

(1) 2020年度CSWスキルアッププログラム 申込み者数・受講生数

	修了生 ①	修了生 ②	修了生 ③	修了生 ④	修了生 ⑤	修了生 ⑥	修了生 ⑦	修了生 ⑧	平均
履修科目数	43	42	41	44	41	47	40	40	42
科目履修率	91%	89%	87%	94%	87%	100%	85%	85%	90%
実出席 科目数	36	34	41	44	41	36	40	36	39
実出席率	84%	89%	100%	100%	100%	77%	100%	90%	91.5%

(2) CSWスキルアッププログラム受講生の受講状況推移

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
受講生数	14名	14名	10名	11名	8名
受講生全体平均点	85点	88点	83点	83点	86点
最高点	90点	91点	85点	88点	89点

(参考) CSWスキルアッププログラム受講生の実出席率推移

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
受講生数	14名	14名	10名	11名	8名
実出席率平均	91.7%	88.6%	88.4%	89.9%	91.5%

## 7. CSWスキルアッププログラムにおける自己点検評価体制等について

本プログラムは、毎年度自己点検評価を実施することにより、そのPDCAサイクルを実行し、プログラム内容、実施体制等に関する質の向上を図るものとする。

### (1) 自己点検評価の体制

毎年度の受講/修了状況や、担当教員・受講生からの意見等に基づき、教育カリキュラムの内容や運営体制等、本プログラム全般に関する自己点検評価を行う。

本プログラムの意思決定機関である、CSWスキルアッププログラム運営会議（外部委員を含む）及び地域連携センター会議において、点検ならびに評価を行った結果は、学内会議を通じて学長に報告する。

### (2) 自己点検評価の公表

自己点検評価の結果については、本学ウェブサイト等で公表する。

## 8. 受講生（修了生）アンケート実施結果

2020年度CSWスキルアッププログラム修了生を対象に以下の通り、アンケート調査を実施した（回収期間：2021年4月7日～4月16日。回答数：対象8名のうち7名（回収率：87%）。

① 2020年度「コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラム（以下、プログラム）全体に対する満足度を教えてください。（選択式/必須回答）

- ・満足している→5名
- ・やや満足している→2名
- ・どちらとも言えない→0名
- ・不満がある→0名
- ・やや不満がある→0名
- ・不満がある→0名

② プログラム受講前に学びたいと思っていた内容を学ぶことはできましたか。（選択式/必須回答）

- ・十分に得られた→5名
- ・得られた部分もある→2名
- ・どちらとも言えない→0名
- ・得られた部分は少ない→0名
- ・得られなかった→0名
- ・その他→0名

③ 遠隔授業（オンデマンド、オンライン）実施に伴うサポートへの満足度はいかがですか。（選択式/必須回答）

- ・満足している→5名
- ・やや満足している→2名
- ・どちらとも言えない→0名
- ・不満がある→0名
- ・不満がある→0名
- ・その他→0名

④ 特に印象に残っている、または受講して良かったと思える講義がありましたら、教えてください（講義名、または教員名でも構いません）。（記述式）

- ・ファシリテート、SDGs、生活困窮者への支援、精神障害者への支援
- ・北川先生
- ・連携・協働、クラウドファンディング
- ・伊藤 清市講師
- ・石塚先生、紅邑先生、矢口先生
- ・社会保障制度の新たな動向Ⅱ
- ・黒坂先生 遠藤先生 菅原先生

- ⑤ プログラムを受講して困ったこと、または改善してほしいことがありましたら、教えてください。（記述式/必須回答）
- ・ 講義中に講師の方が事務局の方々に呼び掛けても反応がないことが何度かあったと思います。
  - ・ 課題提出までの期間（土日中の提出が厳しかった）。
  - ・ 受講者の発言や演習が少なすぎることに。
  - ・ 特になし
  - ・ 特にありません
  - ・ ありません。
  - ・ ミニッツペーパーの課題について、何度か確認させてもらう場面があったこと。
- ⑥ プログラムを受講して良かったこと、または有益だと思える内容がありましたら、教えてください。（記述式/必須回答）
- ・ 他の市町村や様々な業務を行う方々と意見交換ができたのが視野を広げる機会となりよかったです。
  - ・ 様々な知識を得ることができた。
  - ・ 他の受講者の業務等の現状を踏まえた考えを聞いたこと。
  - ・ 福祉を学んでこなかった自分にとって、このプログラムはとても新鮮だった。
  - ・ 幅広い見識を学ぶことができる
  - ・ 仙台市福祉局の方のお話を聞いたことです。地域保健福祉計画の内容や、市民アンケートから見る仙台市の課題など、自治体研究に有益な情報を得ることができました。
  - ・ 現状の仕事や生活のなかでは出会えない分野の話を知ることができたこと
- ⑦ 今後、プログラムに遠隔授業（オンライン授業）を導入することについて、どのように思われますか（新型コロナウイルス感染症の収束後。導入については検討段階です）。（選択式/必須回答）
- ① 可能であれば、全ての授業を対面で行うべき→0名
  - ② 講義内容に応じて、対面授業/オンライン授業の併用があっても良いと思う→6名
  - ③ その他→1名

⑧ ⑦の回答内容の理由を教えてください。(記述式)

【設問⑦の回答が⑥】

- ・聴講のみの講義であればオンライン授業の方が会場までの往復もなく良いと思うが、グループワークは対面で行った方が活発な意見交換が行えると感じた。
- ・演習や発言等を増やしてほしいから。
- ・オンラインにより相手との距離間が掴みにくいところがあった。
- ・グループワークは対面が適している
- ・講義形式の授業であれば、オンラインでも問題ないと思うからです。
- ・私は自宅からの参加であったため、移動にかかる時間がないことが良かったから。

【設問⑦の回答が③】

- ・オンラインのみでも問題ないと思います。

⑨ 必修科目 57 時間、選択科目 63 時間以上という比率について、どのように思われますか。(選択式)

- ・適切→5名
- ・必修科目の割合を増やすべき or 受講生全員が受講する科目を増やすべき→0名
- ・必修科目の割合を減らすべき or 個々の状況に応じた選択の自由度を増やすべき→1名
- ・その他→1名

① わからない。

⑩ こんな講義内容(授業内容、講師(具体的な講師名でも結構です))があったら受講したいというものがありましたら、教えてください。(記述式)

- ・CSWの第一線で働いている方の講義。
- ・福祉という枠組みを超えた、企業的組織的な話。
- ・志水 田鶴子先生

⑪ プログラムを受講してのご意見、ご感想等(要望等でも結構です)をご自由にお書きください。(記述式)

- ・1年間を通してCSWとして必要な知識や技術を学ぶことができました。ありがとうございました。
- ・慣れない中での講義体制で、運営側・参加側ともに大変ご苦勞があったものと推察されます。そのような中で、誰も欠けることなく、修了できたことを嬉し

く思います。今年度からCSWとして配属されたので、プログラムの中で得たものを生かしていきたいと思います。お世話になりました。

- ・講義前後の受講者同士の“あーだこーだ”のコミュニケーションがないのが苦労しました。貴重な情報源なので。でも慣れれば平気かな？と。オンラインに対応するのは個人差があるけど、CSWとして変化に対応しなければいけないという意味では、良い訓練となった。講義も含めて。今後の受講生には、プログラム研修ではなく、訓練という意識で臨んでほしい。
- ・オンラインにより事前資料を自ら揃える手間と、個人で受講するのであれば紙代、インク代の費用が結構かかると思うので改善が必要と思う。
- ・大変有意義な学びの機会となりました。ありがとうございました。
- ・講義の他にも、オンラインでの対応の仕方などが身につきました。全てにおいてよいプログラムだったと思います。ありがとうございました。

※回答内容について、明らかな誤字・誤変換のみ事務局にて修正のうえ記載

## 9. 自己点検評価について（アンケート等に基づく次年度以降への変更・検討等）

広報活動、教育カリキュラムの内容及び運営体制等について、前項「8. 受講生（修了生）アンケート実施結果」等に基づき、本プログラムの充実、改善等を図る。

### (1) 自己点検評価、ならびに次年度以降への改善、充実等

#### ① 広報活動

本プログラムは、社会福祉協議会や地域福祉分野に従事する者を主な受講対象者として想定している。そのため、宮城県内社会福祉協議会や他の社会福祉法人等が、広報活動の主な対象となっている。特に仙台市社会福祉協議会からは毎年度複数の受講申込み者があり、一定の効果があると評価できる。

しかしながら、直近数年間の受講生数が10名前後で推移していること（詳細は「5.(2)① CSWスキルアッププログラム受講生」を参照）からもわかるように、社会福祉法人（社会福祉協議会を含む）のみを主な受講対象者として設定すると、受講生数の大幅な増加は難しい。社会福祉法人に対する着実な広報活動は継続しつつ、新たな受講生層（職業、居住地等）の開拓及びそれらに対する訴求方法を検討する必要がある。特に、刊行物のみならずデジタルツールによる広報活動の方法について、今後検討を行う。

#### ② 教育カリキュラム、授業内容等について

##### (i) 教育カリキュラム全般について

「受講生（修了生）アンケート」の回答からもわかるように、本プログラム全体に対する満足度は極めて高い水準であると言える。本プログラムにおける教育カリキュラムの内容（設置科目等）については、毎年度効果検証を行い、改善を図っており、そのことが受講生の総合的満足度に結びついているものと評価できる。

##### (ii) 実務家教員の配置について

想定する受講生の隣接分野（社会福祉、地域福祉等）における実務家教員の積極的配置は、本プログラムの大きな特徴のひとつであり、受講生からも好評を得ているため、今後も継続すべき内容である。

社会福祉分野等における実務家教員の積極的配置は、名義後援団体等からの厚い支援により実現できているものである。現在の名義後援団体との関係性を継続するとともに、他団体との連携・協力の可能性についても、今後検討を行う。

##### (iii) 学際性をもったカリキュラム構成等について

実務家教員の積極的配置に加え、学際性に富んだカリキュラム構成は本プログラムのもう一つの大きな特徴となっている。ファンドレイジングやファシリテーションを主題に扱う科目設置はその一例である。“学

際性”は、コミュニティソーシャルワーカーの育成及びスキルアップを高等教育機関である本学が担うことの大きな意義であり、独自性とも言える。このことは受講生からも好評を得ており、より一層の充実を求める声も寄せられている。

また、学際性に加え、時代の要請に応えうるスキルが身に付くカリキュラム構成も目指している。一例として、2021年度より「コミュニケーション基礎論とICT活用」「リスクコミュニケーション」等の科目が新規開講予定である。

(iv) 授業科目ごとの運営について

2020年度は、中間報告会、最終報告会を含む全ての講義が遠隔授業となった。オンデマンド型授業及びオンタイム型授業ともに、大きなトラブル等がなかったことについては評価できる。

しかしながら、「受講生（修了生）アンケート」において多数回答があったように、演習を伴う授業については遠隔で実施することの限界を感じさせ、その教育効果が十分であったとは言い難い。新型コロナウイルス感染症により対面授業の常時実施が困難な状況下においても、対策を十分に講じたうえで演習型授業は対面で行う、または、遠隔会議システム以外のオンラインツールの導入・活用など、授業内容（ソフト）に対応した開講形態（ハード）について、検討を行う必要がある。

(v) フォローアップ授業科目について

2020年度はフォローアップ授業科目として1科目を遠隔授業で開講し、1名が受講した。本制度は、過年度の修了生からも好評を得ているため、担当講師の協力のもと、今後も継続すべき制度である。また、本制度は「学びのフォローアップ」であるとともに、「当該年度受講生と過年度修了生の関係性構築」をも目的としている。後者の目的に資するためには、新規開講科目数が少ない場合や、不測の事態等によりフォローアップ授業科目の開講が困難な年度については、“授業”以外の場によるフォローアップが必要である。新たなフォローアップ制度等の導入について、今後検討を行う。

(2) 遠隔授業への変更に伴う2020年度の運営体制等について

開講形態を遠隔授業に変更することについては「4. 新型コロナウイルス感染症拡大防止措置に伴う遠隔講義への変更について」に記載の通り、受講生及び講師に対し連絡等を行った。4月、5月の2ヶ月間をオンタイム型授業実施に向けた準備期間として設けることとしたが、Zoom使用に関する簡易マニュアル及びオンライン授業受講（実施）にあたってのガイドラインを作成するなど、必要なサ



ポート体制を構築したことは評価できる。事務局のサポート体制については、修了生からも概ね満足しているとの回答が得られた。

各回の講義においては、事務局が常時オンタイム型授業に同席し、操作補助や質問への対応を行った。また、オンタイム型授業を学内から配信する講義については、講師補助のため事務局員を増員した。

なお、受講生アンケートからは、事務局不在について改善を求める内容があったため、事務局員の増員も含めて検討し、切れ目のない万全のサポート体制を構築する。また、授業終了時に提示する課題内容については、受講生に明確に伝わらないという事例があった。遠隔授業実施期間中は、ミニッツペーパー作成中に事務局に質問することができないため（対面授業時は、授業終了後に作成し当日中に提出）、授業終了前に事務局からも課題内容を周知するなど、意思疎通の徹底を図る。

### (3) 本プログラムへの遠隔授業の導入について（検討事項）

2020年度に本プログラムを遠隔授業によって実施したことは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急対応であったが、「通学時間が不要」という利便性をもたらしたことも事実である。

「受講生（修了生）アンケート」において、遠隔授業の導入に関し回答を求めたところ、事務局の予想を遥かに超えて、肯定的な意見が多数寄せられた。実際に遠隔授業を受講した修了生から、肯定的な意見があったことは、本プログラムに遠隔授業を導入することの前向きな検討材料になるとともに、より魅力的なプログラムになる可能性を大きく感じさせる。また、遠隔授業の導入は、受講可能地域の拡大にもつながることが予想される（2021年度は、緊急対応により一部講義の遠隔化を決定したところ、北海道在住者1名から受講申込みがあった）。

受講のしやすさ・利便性という「社会人ならではの」の視点から改善、質向上を図るとともに、潜在的受講生層の拡大を目指すため、教育プログラム内容の一部遠隔化について、導入可否を含め今後検討を行う。

### (4) その他

#### ① アーカイブ動画の利用方法について（検討事項）

本プログラムは、2016年度の開設時より、全ての授業を録画しアーカイブしている。授業の録画は欠席者への提供が第一目的であるが、アーカイブ化された授業データの利用については、様々な利用可能性があると考えられる。受講生のみならず、講師に対して（他の講義との連携/連続性、授業改善等）も提供する等、効果的な利用方法について、今後検討を行う。

② 科目単位及び短期間の受講カリキュラムについて（検討事項）

CSWスキルアッププログラムは、120 時間以上の履修を修了要件のひとつに定める、体系性を持った教育プログラムである。本プログラムが目指すところの人材養成を達成するには、まとまった時間の受講が必要であることは言うまでもない。しかしながら、働きながら学びを続ける社会人にとって、「120 時間以上の履修」は、プログラム受講へのハードルにもなり得る。気軽にプログラムの内容を知ってもらい、または、次年度以降の本格的な受講を検討してもらうためのきっかけとして、より手軽に受講が可能な科目単位や、短い期間での受講を認める仕組みについて、導入可否も含め今後検討を行う。

## 10. 終わりに

前述の通り、CSWスキルアッププログラムは開講から5年目を終え、累計修了生数は50名を超える。本プログラムは開講以来、受講生アンケート等に基づき、絶えず教育カリキュラムの検証、改善を図ってきた。また、宮城県社会福祉協議会及び仙台市社会福祉協議会等と緊密な連携・協力関係を構築することにより、県内の社会福祉、地域福祉現場における最新の情報等を受講生に提供する努力を重ねてきた。

このように教育プログラムの改善サイクルを絶えず実行してきたことが、受講生の1年間の学習に対するモチベーションを保ち、高い修了率を維持することに繋がっている。毎年度の修了生から、プログラム全体に対する高い満足度を得られていることも、その証左と言える。

教育プログラムについては、満足度の高い内容を提供できているだけに、今後の大きな課題は広報体制・活動の強化である。また、今後の検討事項の一つである「遠隔授業導入」が実現した際には、新しいかたちでの広報活動（媒体・対象等）についても考えていく必要があるだろう。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、開講形態や運営体制等において例外的対応が続いたことは本報告書で既に述べてきた通りである。そして、遠隔授業への移行は「やむを得ず」の対応であったことは間違いない。しかしながら、年間を通して、本プログラムを遠隔で実施・運営することは、社会人受講生ならではの視点から、「遠隔授業の利点」を示唆するだけでなく、「(今のままの)遠隔授業では実現できないこと」にも気付かせる契機となった。

CSWスキルアッププログラムは、2021年5月現在、本学で開講している唯一の履修証明プログラムである。改めて述べるまでもなく、今後「リカレント教育」や「社会人の学び直し」に対する、社会からの期待や要請はますます高まってくる。本学においても、社会人教育への積極的な取り組みが、今後求められてくることが予想される。本プログラムについては、自己点検評価体制に基づくPDCAサイクルを絶えず実行し続けることにより、改善、充実を図ることは当然の使命である。同時に、本プログラムの運営により得られたリカレント教育実施・運営に係るノウハウ等を蓄積することにより、本学の社会人教育運営体制確立にも寄与することを目指していく。

以上



東北学院大学  
TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY